【インドネシア―車両】

スズキ四輪、展示会で1700台を受注

ジャカルタで開催された「インドネシア国際モーターショー（ＩＩＭＳ）2025」のスズキのブースで、税制優遇の対象であることを示す立て看板とともに展示された「ＸＬ７」のＨＶモデル＝２月、ジャカルタ特別州（ＮＮＡ撮影）

スズキのインドネシア販売会社スズキ・インドモービル・セールス（ＳＩＳ）は４日、首都ジャカルタで２月13～23日に開催された自動車展示・販売会「インドネシア国際モーターショー（ＩＩＭＳ）2025」で、およそ1,700台を受注したと発表した。前年開催時から41%増加した。

スポーツタイプ多目的車（ＳＵＶ）「ＸＬ７」のハイブリッド車（ＨＶ）モデルが全体の43%を占めた。ほか、小型商用車「キャリイ」が23%、ＳＵＶ「グランドビターラ」が11%の割合だった。ＳＩＳはＨＶモデルへの高い関心が好調な受注台数につながったとした。

インドネシア政府は今年から国産のＨＶへの奢侈（しゃし）税優遇を開始。スズキは、「マイルドハイブリッド」（エンジンをアシストする機能に特化しバッテリーのみでは走行しないシステム）で展開するＸＬ７と小型多目的車（ＭＰＶ）「エルティガ」の２車種が対象となっている。

また、ＳＩＳの試乗体験には約3,000人が参加した。５ドア仕様の小型ＳＵＶ「ジムニー５ドア」用の特別試乗コースを設けるなどした。

ＭＧ、受注の８割がＥＶ

上海汽車集団（ＳＡＩＣ）傘下の英系ＭＧモーターは、ＩＩＭＳ 2025で500台以上を受注した。クロスオーバータイプの電気自動車（ＥＶ）「ＭＧ４　ＥＶ」が全体の60%を占めた。ＳＵＶのＥＶ「ＭＧ　ＺＳ　ＥＶ」が20%の割合で、残りはそれ以外の車種だった。

国営アンタラ通信によると、ＭＧモーター・インドネシアのヘ・グオウェイ最高経営責任者（ＣＥＯ）は４日、今年から導入された現地生産ＨＶへの奢侈税優遇政策について、自社製品にも適用できれば販売価格の低下に役立つとの考えを述べ、ＨＶの現地組み立て生産を計画していると明らかにした。

【インドネシア―公益】

アラム・エナジー、ＤＮＰに太陽光発電設置

自然電力（福岡市）、アラムポート（東京都千代田区）、ＮｉＸ ＪＡＰＡＮ（ニックスジャパン、富山市）が出資し、インドネシアで太陽光発電パネルの設置を手がけるアラム・エナジー・リニューアブルズ（旧ＡＴＷアラム・ヒジャウ）は５日、大日本印刷（ＤＮＰ）の現地法人の工場に屋根置き太陽光発電設備を設置したと発表した。

西ジャワ州カラワン県にあるＤＮＰインドネシアの工場の屋根に、総面積約5,000平方メートルの屋根置き太陽光発電設備を設置した。定格出力は1.102メガワットピーク時となり、２月27日に完工セレモニーを開催した。今月中に設備の運転開始を予定する。

今回の設置は、2023年に第１期として設置していた1.658メガワットピーク時の設備に続く導入となる。太陽光発電に切り替えたことによる温室効果ガスの削減量は、第１期と２期合わせて年間で約2,300トンを見込む。

アラム・エナジー・リニューアブルズのインドネシアでの太陽光パネル設置容量の累計実績は、25年３月末時点で約26メガワットとなる予定。

西ジャワ州カラワン県にあるＤＮＰインドネシアの工場の屋根に設置された太陽光発電設備（アラム・エナジー・リニューアブルズ提供）

Copyright(C) NNA All rights reserved. 記事の無断転載・複製・転送を禁じます